

No.	22-2020	
研究課題名	高度肥満症患者における老化細胞の発現の検討	
研究代表者	齊藤 卓也（愛知医科大学（外科学講座）消化器外科・講師）	
研究組織	受入教員	中西 真（東京大学医科学研究所・教授）
	分担者	佐野 力（愛知医科大学外科学講座（消化器外科）・教授）
	分担者	中西 真（癌防御シグナル分野・教授）
	分担者	深見保之（愛知医科大学外科学講座（消化器外科）・講師）
	分担者	安井講平（愛知医科大学外科学講座（消化器外科）・助教）
	分担者	上田 翔（愛知医科大学外科学講座（消化器外科）・助教）

東京大学医科学研究所国際共同利用・共同研究拠点事業
共同研究報告書 (年次終了・研究完了)【国内】

共同研究報告 (年次終了)

2022 年度年次報告

1, 下記、記載の研究計画書を作成し、愛知医大において倫理申請を行い、承認を受けた。

2, 計画書に沿って、検体の取得をおこなった。

腹腔鏡手術による高度肥満症手術 (スリーブ状胃切除術)、鼠径ヘルニア・腹壁ヘルニア修復術の適応がある症例に対し、通常切除・検査 (生検) する組織を検討する。また、ポート刺入部からは直視下に皮下脂肪組織を採取 (約 0.5 cm × 0.5 cm) とヘルニアの場合は大網を腹腔鏡下に採取 (約 1 cm × 1 cm) を行う。なお、腹腔鏡によるスリーブ状胃切除術とヘルニア修復術は、当院での多くの経験がある。高度肥満症については、日本肥満症治療学会 肥満症外科手術認定施設になっている。ヘルニアについては、日本内視鏡外科学会からヘルニア技術認定を取得した医師が治療を行っている。なお、これら手術の実施は、消化器外科学会専門医・内視鏡外科学会技術認定医の資格を持ち、実際に多くの手術の執刀経験がある医師 (齊藤卓也) が行う。

既存試料: 採取回数 1 回

スリーブ状胃切除では胃・大網の一部・fad pad 含め 300g 程度、ヘルニアでは腹膜前脂肪 3g、精索脂肪腫はあれば切除する。

新規試料: 採取回数 1 回

全ての術式で少量の皮下脂肪とヘルニア修復術の場合は内臓脂肪 (大網) を腹腔鏡下に採取する・

A(1) 肥満群の既存試料: ①His 角近くの内臓脂肪 (fat pad)、②胃に隣接する内臓脂肪 (大網)、③切除した胃の一部、④肝生検の一部

A(2) 肥満群の新たな試料 (採取): ⑤皮下脂肪 (ポート挿入部)

B(1) 正常群の既存試料: ①腹膜剥離時に得られる精索脂肪腫 (存在しない場合あり)・腹膜前脂肪織

B(2) 正常群の新たな試料 (採取): ②内臓脂肪 (大網) の一部、③皮下脂肪 (ポート挿入部)

3, 現在、腹腔鏡手術による高度肥満症手術 (スリーブ状胃切除術) における検体を 5 例、鼠径ヘルニアにおける検体を 5 例取得した。それぞれについて、ヒト抗 p16 抗体を用いた免疫染色法により検討を進めている。